



## 日野小「ゆめ通信」

佐世保市立日野小学校 学校だより  
第16号 (R5.3.14) 文責 山口

Hino's Education 81

自分の思いや考えを豊かに表現し、高めあう児童の育成

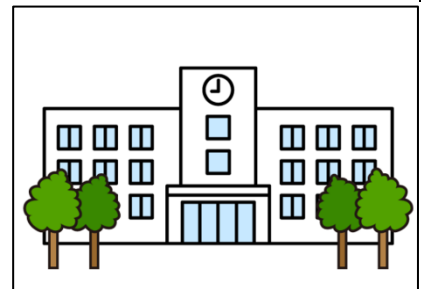
### 「心こめ 門出の祝い 贈る歌」 (本校5年児童の句、以下同じ)

別れの季節。話をする機会がたくさんありました。5年生の俳句とともにお知らせします。

「こんなに仲がいいのに、どうして別れなければならないのでしょうか。」

それは、皆さんが、どんどん大きくなっているからです。

去年着ていた服が、今は着られない、そんな服がたくさんあるでしょう。気にいった服でも、小さくなったらお別れをしないとイケませんね。



6年生には、小学校という服が小さくなったのです。今まで6年生を守って、温めて、カッコよくしていた小学校という服が小さくなりました。中学校という、大きな服に着替えないとイケないのです。

だからと言って、6年生が着ていた服は、捨てるわけではありません。5年生にプレゼントします。5年生は、6年生の温かみの残った服を着て新しい6年生として活躍するのです。5年生は5年生の服に別れを告げ、4年生にプレゼントします。4年生は3年生に、3年生は2年生に、2年生は1年生にプレゼントします。1年生は、この間、幼稚園や保育園のお友達にプレゼントしていましたよね。

学校の別れは、とてもさびしいけれど、優しさや思いやり、頑張りをつないで一人一人が成長するために絶対になくってはならないのです。」(3.3 お別れ集会の挨拶より抜粋)

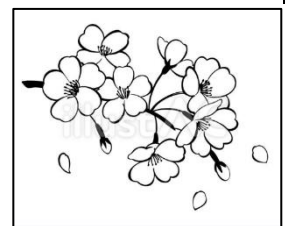
### 「時が来た さびしい別れ 桜まう」

#### 「桜咲く 共に卒業 ランドセル」

「校舎の中に、お別れの花道が出来ています。5年生が中心となって、つくってくれました。6年生への感謝の気持ちが発信され

ています。飾りばかりではありません。お別れ集会も6年生を気持よく送り出す工夫がされていました。朝夕のボランティアに励む人も増えました。「あとは任せてください」という気持ちを行動で示してくれています。

5年生にとって「別れる」と「受け継ぐ」は同じ意味です。この後、校旗継承式があります。6年生がみんなを守ってくれたこの校旗を、しっかり受け継いでください。重いよ。」(3.9 卒業式予行練習での挨拶より抜粋)





「卒業生  
立派な姿  
預かります」

「これから6年生は、新しい道を歩んでいきます。『思春期』と言う人生の春の道です。この道は、桜道のように明るく華やかな道です。体は大きく成長し、大人と変わらなくなります。蓄えていた才能が開きます。

一方、嵐が吹き荒れる道でもあります。風に吹かれて倒れ、起き上がり、また倒れ、また起き上がる。これを何回も繰り返しながら、本物の自分の足腰を作っていきます。

2年半前、台風が吹き荒れた翌日、あなたたちは自らの意志で、折れた枝や散った葉を片付けてくれました。力を合わせて片付けたをしたあなたたちには、前より美しくなった環境と、青い空が待っていました。

どんなに嵐が吹こうとも、厚い雲の向こうには必ず青い空があります。今まで歩んできた道での頑張りを生かして、新しい道を歩んでください。」

(3.9 卒業式予行練習での挨拶より抜粋)

「巣立ちゆく 希望の光 次の道」

「空見上げ 今から行くよと 春来たり」

「3月16日。今日は卒業証書授与式だった。頑張った子供達が有終の美を飾る日だ。新型コロナウイルスと共に戦ってくれた同志のような子供たち。校舎が建て替わる中、不便な生活をもろともせず学校を守り、成長を続けた子供たちの卒業式だった。

美しい卒業式になった。担任の呼名に、凜とした返事が会場に響き渡った。

証書を受け取る時の姿は堂々としていた。別れの言葉や歌声には、魂が入っていた。

一瞬一瞬の動作や言葉に感謝の気持ちがこもっていた。これまでの成長とこれからの覚悟が発信された。」(3.2 卒業式の練習時の校長未来日記より抜粋)

「快晴だ 卒業証書 目にしみる」

「桜咲く はじける笑顔 後にして」